

令和7年度 ウェルカムミーティング 会議概要録

- 開催日時 令和7年11月10日（月） 10時30分～11時20分
- 開催場所 長沼町役場 町長室
- 出席者 マオイ・アウンウタラ 池上氏
齋藤町長、塩浜副町長、青野政策推進課長

青野政策推進課長	<p>過去にながめま創生町民提案プロジェクトを行った団体の方たちにお声かけをさせていただき、行ってきた事業の成果や、課題感についてお話をさせていただき、また町政に対する提案などもお聞かせいただけるとありがたいという思いから、ウェルカムミーティングという形で懇談会を開催いたしました。限られた時間ですが、どうぞよろしくお願いたします。</p> <p>マオイ・アウンウタラさんはこれまでに2回、町のにぎわいを創生していただく趣旨で、カフェピアーノピアーノさんの横の共有スペースでイベントを開催していただきました。イベントに来場された方々が仰るように、作品を通じて人々とのふれあいや、町の魅力の発見があったのではないかと考えています。</p> <p>事業に関して、成果ややってよかったと思うことはありましたでしょうか？</p>
池上氏	<p>町内には様々な理由からアート協会とかに入っていない作家さんも結構いらっしゃると思います。折角アートをやっている方がいてもそれぞれ独立した活動になっていたため、私はアート協会にも入っていますが、協会に入っていない作家さんも含めた活動を町内で何かできればと思っていました。展示をするスペースは狭いのですが、商店街に良い場所があるということで、事業を企画しました。</p>
青野政策推進課長	<p>やっぱり場所的な部分は当然手狭ですからね。私もそれは感じているところです。</p> <p>池上さんの話を聞いて、アート協会に入っていない作家さんがこんなにいたんだなと驚いた部分もあって、事業を通じて掘り起こしに大きく寄与されたのではないかと思います。</p> <p>場所ということですが、フリースペースといいますか、サードプレイスという観点でも課題を感じていらっしゃいますか？</p>
池上氏	<p>感じますね。町の施設の中で展示のようなことをやろうとなったら、図書館のギャラリーは、場所はいいんですが、あそこは販売はダメっていうふうに言われているんです。ただ、それは条例上書いてあるのかとか、そういうことをちゃんと示してもらってはいないんですね。公的な場ですし、多分いろいろな縛りがあるのかとは思いますが。</p>
青野政策推進課長	<p>例えば、興行で利用する方との条件を区別してもいいと思うんですよね。図書館というものがサードプレイスとしての1つとなり良き場所になるのであれば、行政もあり方を変えてしかるべきだと思います。</p>
池上氏	<p>細かいことを言えば、図書館で展示しますよね。すると、ちょっと照明でスポットを当てたいというふうに思うじゃないですか。展示をする場にコンセントがあるので、使わせてもらえたらすごくありがたいんですけど、電気は使っちゃいけないというふうに言われるんです。そういうのも、例えば使用しない人は使用しないで今までどおり無料で施設を利用でき、電気を使いたい場合には、期間に応じて料金を支払うことで使用を認めるというふうにしたら、もっと展示やイベントの幅も広がると思います。</p>

青野政策推進課長

池上さんには、町民会館の取り壊しのときに、思い出の写真展示を率先していただきまして、本当にありがたかったと思っています。ただ、そういった中で、やっぱり不便な部分があったということで。公共施設の利用者のニーズ把握も重要と思いました。今後は活用しやすく、図書館がサードプレイスのような場になっていけばいいと思います。

池上氏

図書館は月曜休館なんですよ。祝日法が変わって、昔に比べて月曜日の休みがすごく増えたんですよ。普通のカフェの営業とかであれば、月曜が定休日であっても、祝日で月曜日休みになるならお客さんが増えるからその日は営業して、火曜日休みますって普通ですよ。ただ図書館は月曜日が祝日でも休みなんですよ。だから祝日に催しをできる場所がない。制約があるため、箱としての場所はあるのに活用できないっていうふうにすごい感じていますね。同じ目線で言うと、りふれの土曜日休みもそうですね。いろいろ場所がなくなって、町民会館とかできてたようなことをやりたいと思っても制約がある。本当は場所がないわけじゃないんですよ。使い勝手の悪さというのはあるんですけど、でもそれを実際に役場のどこの部署に伝えに行ったらいいのか、どういうタイミングで言ったらいいのかっていうと、そういう機会がないというか。それを広報情報係に言ったらいいっていうことも、なかなか分からないんですよ。

齋藤町長

そうだよ、なかなか誰に言ったらいいのか分からないですよ。

池上氏

そうなんですよ。役場庁舎に入って、まずどこに行ってもいいか分からないっていうのは皆あると思うんですよ。皆が入ってくる正面玄関に案内の人なり、どういう件についてはこちらです、困った人はまずここに来てくださいみたいなところをちゃんと示すっていうのは、すごく大切だと思いますし、なんでこの町はそれがいいのかなとずっと思っています。

齋藤町長

今年副町長から、顔を上げて、玄関のところで「こんにちは」「おはよう」と必ず言えよというふうに号令を出してもらって。

青野政策推進課長

他の自治体では庁舎を新しくした時にコンシェルジュを配置して、訪れた方に対して適切に案内するようにしていましたね。

齋藤町長

岩見沢市や北広島市もいたんじゃないかな。

青野政策推進課長

その部分に関しては、市役所は庁舎が広いのに対して、長沼町は庁舎がコンパクトなので案内人が不要であったという部分もあります。ただ、同じ福祉系の業務でも窓口がりふれなのか、国保年金係なのか、そこでもアンマッチがあって、急にりふれに行ってくださいとか、逆に役場行ってくださいということになると来訪者は疲弊しますね。そこは我々も当然気をつけていますけれども、今一度、各課で配下の職員に「何かありましたか？」という気持ちをもって接遇することが大切かと。

池上氏

ただ、職員さんそれぞれはすごくいい人だねってみんな言うんですよ。やっぱり、入り口を1つにするということが必要だと思います。

電話もそうですね。メールでもいろいろ問い合わせできますけど、全部メールアドレスが担当課ごとだったりするじゃないですか。そうじゃなくて、やっぱり町政に対する窓口的なものは、ホームページ上でもそうですし、庁舎に来た時もそうですし、1箇所わかりやすくなっているというのは、役場と私たちの距離が狭まるきっかけになるんじゃないかなど。特に移住してきたばかりとか、ちょっと聞きたいことがあるというときに、本当にどこに聞いていいかわからないというふうになりますので、そこは改善した方がいいなと思ってます。

あと、第三の居場所のワークショップに10月の末に参加したんですが、町の案内の仕方にいつも疑問があるんですね。どういうことかという、先に友人からLINEでワークショップの案内が来たと教えてもらったんですが、詳細はLINEの画面から町のホームページにリンクするようになっていまして、詳細を見ますと都市整備課が担当で、都市計画マスタープラン作成のため第三の居場所づくりワークショップをこの日程で行いますみたいなこと書いてあるわけです。そもそも、都市計画のマスタープランというのを、長沼町で策定しようとしているということを私たちは知らないですし、都市計画マスタープランというのが何のために必要なのかも知らない。どういうエリアを対象としているのか、どういうふうに関わってくるのかということ、全くわからないんですよ。そういう中で、参加申込みに関して、氏名や連絡先だけでなく、具体的な提案も申込みの時に書いてくださいと案内がされています。役場側は細かい経緯を何も言っていないのに、参加する側には急に何か提案してくださいって感じの申込みだったんです。これはやはり最初から入り口を狭めている感じがしますし、どうしてそういうことをするのかっていうことがわからない中で人を集めたとしても、目的としているところにたどり着かないと思うんですよね。少ない時間を有効に活用するという意味では、やっぱりちょっと足りないかなというふうに思います。

今日に関しても、事前の案内文に何をやる場で、どういう団体を選んでいるかを書いてほしかったです。いろいろ分からないことをポンと振られる感じが結構あります。やっぱりもうちょっといろんなことを事前に、これからこういうことをする予定ですとかというようなことを広報紙に載せて、やりましたという情報だけでなく、これからこの町はこういうことをしようとしていますよ、ということも知らせてほしいと思います。町の予算のことは出てますけど、もう少しわかりやすい言葉とか形の方がいいですし、今実際こういう問題があって、こういうふうな検討中です、みたいなことを伝えていくことが大切に感じます。マオイゴルフリゾートの話も多分本当に役場の方は前から検討されていると思うんですけど、検討の途中経過が全然示されてなくて、役場としては決まったこと以外を周知してもし変わったら、公表したのになんかどうしようっていうのがあるのかもしれないですが、やはり途中段階を出すということも当たり前にしてもらいたいです。これからこういうことをしようと思ってるみたいな、そういうアナウンスがすごく重要なかなって思います。

青野政策推進課長

仰る通りです。周知の仕方の部分に関しては、施政方針ってご存知だと思いますが毎年広報紙にも載せていて、非常に長文なんです。なかなか読むのに時間がかかります。ウェルカムミーティングに関しては記載していますが、いつどういう形でということは、年度が開始してから検討しました。サードプレイスの話もそうで、都市計画マスタープランとって理解する人は、多分職員の中でも関係している人とか、携わった人以外は難しいのと、都市計画マスタープランをなぜ作るのかということも都市計画審議会などの限られた人で共有されているものかと。

池上氏

残念ながら書いても読まない人はもちろんいると思うんですよ。ですけど、やっぱり読む人もいますから。

青野政策推進課長

ちょっと施政方針は書きすぎですかね。

齋藤町長

書かなかったら書かなかつたで、やらないのか？ってご指摘をいただきますから。

青野政策推進課長

年々増えるんですよ施政方針の内容は。やっぱり新しいこともアピールしたいじゃないですか、我々の課としては。そうすると、町長も伝えたいことがたくさん出てきますからね。

池上氏

やっぱり子どもにも分かるものを作ったらいいんじゃないでしょうか。目が遠く
なってきたら、本当に細かい文章を読むのは嫌になりますし、子ども版作ったら、も
ちろん子どもも読みますしいと思います。大人でも理解できなかったことが、子ど
も版を見ると、ああ、単純に言ったらこういうことなんだというふうに。まあ、
ちょっとニュアンスが違ってしまう場合もあるかも分からないんですけど、やはり分
かりやすさは相当増すと思うので、そういうのを作ることが当たり前になるといいと
思います。

青野政策推進課長

実は、総合振興計画も百ページぐらいにわたるので、読み込むには厳しいこともあ
るんですけど、以前に子ども版など作っては、という話がありまして、要約版までは
作らせていただいたんですけども至りませんでした。やはり未来ある子どもにわか
りやすく見せるのが効果的であると感じています。もちろん長い文章で喋らなければ
いけない部分はあるんですけども、私もいろいろ調べまして、AI技術はなかなかすご
くて、要約できるんですよ。我々はAI技術を積極的に活用して効果的に打ち出そうと
しておりますので、より良いものができればと思っています。やはり広報公聴の部
分って、そういったお話を聞かせていただいて、そこで改善していくのが仕事だと
思ってますから、前と同じようなことで、だから出来ないんだということは誰も聞き
たくない答えだっていうのはよく承知しています。であれば、新技術を入れながら
も、間違っただけを出してしまわないよう人間によるしっかりとしたチェックを行
う、そういう形での仕事の役割を今構築しておりますので、1つ1つ積み重ねてやっ
ていこうと思っています。

池上氏

意見だけ出してスルーされていると思う部分もありますけど、やっぱりそういうふ
うに言ってもらえますと、意見も出してよかったなというところもありますので、話
す機会というのはすごく大切だと思います。ただ、正直なところ、町長室でこういう
状態で話すというのはちょっと。

青野政策推進課長

まちづくり会議もそうなんですけど、もう少しカジュアルに意見交流ができな
いかなというところについては、課題なのかなと。どんな感じがいいですかね。

池上氏

これでもいいとは思いますが、場所は町長室じゃない方がいいと思います。そ
れだけでもだいぶ違うと思います。ここはやっぱり町長のエリアじゃないですか。民
間エリアまでいかななくても、例えばりふれだったらもっと行きやすいという人がいま
すね。役場はやはりちょっと硬いイメージがあるみたい。来たことない人にはやはり
ちょっとそこで待たされたり、背広を着た方がぞろぞろいる中に来るといのは敷居
が高いので、平たく話したいという感じであればりふれとかの方が適していると感じ
ます。

青野政策推進課長

会議室とかじゃなくて、りふれのロビーのエリアでもいいと思いますか？

池上氏

ただ、町長がお越しになるとちょっと違うかもしれませんし、もちろんこの場に町長がいらっしゃるということも大切だとは思いますが、そうじゃなくて、単にそのりふれの木のあるロビーで、担当課長や何人か役場の方と町民のグループとで話すっていうようなのを、例えば月の第4金曜日何時から行うなど、そういう感じで継続してやるみたいな形もいいと思います。オープンなところでやったほうが、そういうことを町もやってるんだなと、りふれに来て近くを通った人もなんかやってるぞって感じになりますし。また、こういう事業をやるにしても、やっぱり広報紙やホームページなどでやりますよとかやりましたよ、その時どういう話出ましたよっていうようなものを出してほしいです。町民提案プロジェクトの補助金についても、やはりちょっと分かりづらいと感じます。それはどういう補助金でどういう人が使えるものだったっていうことを、制度として継続していくのであれば、広報紙の紙面を開いた時にこういう事業があって、実際こういう団体がこういう事業に使っていますと書いてあれば、やってない人にもわかるのでいいと思います。今回補助金の実績があるから、話す機会があるわけですが、補助金を使いたくても使えなかった人の意見とか、どうしたら使えるようになるかということも大切というか、そういうところをどうやって引っ張っていくかということの方が、必要な部分だと私は思うので。

青野政策推進課長

この事業ですが今年が初年度目ですので、こういう形でお声がけする団体を限定してしまいましたが、ざっくばらんに町長と何かこう懇談ができるような会ができたという思いから始めたもので、まず皆さん方に話を聞いてみて、次年度以降ブラッシュアップ・アップデートしていきたいと思っております。町長室は町長いるところなので、ウェルカムと言いましたけど、私たちですらこの部屋には気を引き締めて入りますので、ざっくばらんと言ってますが、それをやるためには、場所っていうのも大事ですね。

補助金もそうです。確かに、町の補助金となってくると、少し構えるというか難しいのではという感想もありますが、わかりやすく補助事業の説明やご案内などでできればと思います。

池上氏

申込み用紙を書く時点で、慣れてない人にはやりづらいです。

青野政策推進課長

そんな中では、こういう取組はいいよねっていうものを側面的に押し上げるっていうのは、我々の仕事かと思えますし引き続き考えさせていただきたいなと思っております。

池上氏

今回のようにイベントを行うという内容だと、教育委員会の後援事業と結構絡むんですが、やはり窓口は別っていう形になるので、そういうことをセットで支援とすることができるんだよとか教えてもらえたりするとすごく良いのかなと思う。

青野政策推進課長

後援事業に関しては、これだったら後援も受けられる可能性があるよね、という形でアテンドさせていただくこともあります。後援制度は、やはり町として応援している、携わっているということを示すので、周りの人たちも後援を受けるとだいぶ印象が違うということは、情報としていただいております。

池上氏

駅にチラシを置いてもらう際に後援って書いてあると置いてくれるけど、そうじゃなかったらただの民間団体という扱いになって、置いてもらえなかったりするようです。

青野政策推進課長	<p>事業の格が上がるというのは、聞かせていただいたことあります。この事業をしていただいているいくつかの団体の人に、補助金をもらっているとやりやすくなったとか、駐車場が借りやすくなったとか、そういう話も聞かせていただいた時もあるけど、逆にそういう効果があるんだなっていうのは発見でした。手前みそながら、応援させていただき効果的な声をいただけることは、本当に嬉しいものです。</p>
池上氏	<p>その補助金の事業を広めることについて、例えば、他のまちに行って、観光パンフレットをいただいたときに、このパンフレットはなんとかの助成を受けて作成していますって裏にちょっと書いてあることがありますよね。そのような形で、補助金を利用した方が印刷物を作成するときに、一筆そういう文面を入れるということも、逆に町側から補助金を出すときの条件にするなど、何らかの表明をするという形にすることで、町でそういう補助事業をやっている、そういうのを使ってされているんだな、ということを知ってもらうということもできると思います。補助事業があるってことも知らない人が多いと思いますので、町でそういう応援してるんだなということを知ってもらうという意味でも、広報紙に書くのももちろんいいと思うけど、その補助事業を使っている側の人に対して、そういうことを求めていくというのもいいのかなと思います。</p>
青野政策推進課長	<p>広報関係の事務の参考とさせていただきます。</p>
池上氏	<p>最後に1ついいですか？ 全然関係ないんですけど、新しい義務教育学校の校歌について検討をされていたと思うんですね。開校準備委員会の議事録の中で、校歌としては今の小学校と中学校の校歌をそれぞれ活かして歌うけれど、全校で歌える新しい歌も作るっていうようなイメージとして受けたんですけど、長沼町は新しいもの、新しいものというふうにして、古いものは全然残っていかないというような部分を結構感じていて、一方で、郷土愛を大切にしていうことを言ってるじゃないですか。郷土愛っていうのは、古い物、郷土資料だとか、昔の物を大切にしたり、引き継いでいくことで育まれていくものなのかな、というふうに思っていて、例えばみんなで歌う歌として旧長沼中央小学校の校歌がよいのではないかなと思っているんです。長沼小学校の校歌ではなく旧長沼中央小学校の校歌であれば、もともと結構長い期間歌われた歌なので、おじいちゃん、おばあちゃんとかも歌っていた世代がいますし、知っている人は長沼の中に多いかなと思います。全く何も残ってないというよりは、何か1つでもそういうふうに昔から続いていて、郷土というか、地域で歌われてきた歌を今後も歌っていけると素敵なのかな、というふうに思っています。</p>
青野政策推進課長	<p>義務教育学校では地域学も学ぶかと。今のお話の部分は地域学とつながると個人的には思います。校歌は校歌として、義務教育学校のルールの中で検討など進めておられるかと思いますが、地域学という1つのコマの中で、過去に古く歌われてきて、歌い継がれていくようなものってどうなんだろうね、ということの子供たちに話をして、自ら学び考えを共にし深化するコンテンツの1つとして、組み入れられることが可能であれば、十分考えられるのではないのかなと思います。</p>
池上氏	<p>小学校の統合の時なので結構前のことですが、何人か署名を集めて間嶋教育長に文書はお出ししたんですね。</p>
青野政策推進課長	<p>では、地域学や図書館運営など、多くのご意見を教育委員会にも共有したいかと思っておりますので教育長にもお伝えいたします。また引き続き、広報に関しても、至らないところもありましたが、日々改善しようと努力をしておりますし、この会も次年度以降続けて、どのような形でやるかというのは、場所も含めて再検討させていただければと思っております。定刻となりましたので、以上で終わります。ありがとうございました。</p>